

2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 4 日作成)

小委員会名	雨水利用システム規格小委員会		主 査 名：神谷 博 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (水環境運営委員会)		委員長名：井上 勝夫 主 査 名：小瀬博之
設 置 期 間	2007 年 4 月 ~ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水利用システムのアカデミックスタンダードづくり ・初年度：ワーキングドラフトの作成 ・次年度：シンポジウム開催とパブコメ 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有		
	神谷 博(法政大学エコ地域デザイン研究所)、村川三郎(広島大学)、村瀬 誠(墨田区役所)、屋井裕幸(雨水貯留浸透技術協会)、佐藤 清(テクノプラン)、本庄正良(雨水貯留浸透技術協会)、熊谷 清(財)ダム水源地環境整備センター、栗原秀人(財)下水道新技術推進機構、目黒 享(財)下水道新技術推進機構、中臣昌広(文京区文京保健所)、川ゲン・グイッチストク(慶応大学非常勤講師)、山田岳之(糺ノ森環境政策研究所)、谷田 泰(タコハウジングウエア)、早坂悦子(NPO 法人雨水市民の会)		
設置 WG (WG 名：目的)	設計WG：雨水システムの設計規準の検討 事業WG：雨水システムの製品、製造の規準の検討 制度WG：雨水システムを普及させるための制度の検討		
2007 年度予算	67,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 「雨を活かす建築づくり 規格化に向けて」 (資料名) 同上 参加者数 45 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. ワーキングドラフトの作成にはまだ時間が必要 2. 初年度のシンポジウムは予定通り実施した 3.
委員会活動の問題点・課題	1. ワーキンググループを立ち上げたがメンバーの補強が必要 2. 全国的に意見を求める工夫がこれから必要

2007 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>初年度の目標に対して80%程度の成果は上がった。 シンポジウムを開催したことと、そこで内容のある議論ができたことにより、次年度につなぐ礎を築くことができた。 シンポジウムの開催は朝日新聞にも記事として取り上げられ、社会的に注目度が高いことが確認できた。 参加者は名古屋や京都など遠方からこのシンポジウムのために来た方もいて熱心な質問、議論が交わされた。</p> <p>課題としては、ワーキンググループの立ち上げがやや遅れたことにより、ワーキングドラフトの煮詰めが当初の予定より進まなかった面がある。 次年度がワーキングドラフトの煮詰めの作業となるので、ワーキンググループのメンバーも追加した。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。